

令和6年度 相模向陽館高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

1 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
①法令遵守意識の向上	職員一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持って取り組み、決められたルールを遵守し、児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を行っている職員はゼロを目標とする。	○生徒指導、部活動等について必ず複数人で対応したことで、生徒が安心して活動できる環境をつくれた。 ○管理職が、授業や部活動の様子、教科準備室等の利用状況を日常的に巡視を行った。 ○具体的事例を示して職場研修を実施し、職員に当事者意識を持たせた。 ○校長による個人面談を実施し、生徒とのSNSの利用がないことを確認した。
②職場のハラスメントの防止	人権感覚と規範意識、協働意識の向上を図る。	○職員間の適切なコミュニケーションについて日ごろから職員間で確認し合う環境を維持した。 ○管理職による面談で、職員間及び対生徒のハラスメントがないことを確認した。
③児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為が生徒の人権を踏みにじる行為であり、決して許されないことを全ての職員が十分に理解し、人権に配慮した行動の徹底を図る。	○性被害から自分の身を守ることの重要性や教職員等から不適切な行為を受けた際に相談を受ける体制をわかりやすく周知した。 ○校長による個人面談を実施し、生徒とのSNSの利用がないことを確認した。(再掲) ○生徒の連絡先は適切に取得し、紛失や漏洩がないよう管理した。
④体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権に対する配慮を怠ることなく日頃から適切な生徒指導に努め、体罰や不適切な指導を未然に防ぐ。	○丁寧な声掛けから始まる指導を全教員が心掛けたことで、生徒も冷静に指導を受けられるようになるなど、学校全体が良い雰囲気になってきた。 ○日ごろから生徒の状態把握や保護者とのコミュニケーション等に努め、気になる生徒の情報を職員間で共有することで、組織的な粘り指導を行うことができた。
⑤入学者選抜、成績処理及び進路関係書類及び取扱いに係る事故防止	マニュアル等を厳守した適切な事務処理の徹底を図るとともに、管理職をはじめ全ての職員が職員同士の相互チェックに取り組むことで、事故防止に努める。	○入学者選抜業務における作業手順の徹底と、複数チェックを確実に行之、入力ミスゼロを達成した。 ○調査書・推薦書の作成及び取扱いについては、キャリア支援担当者及び管理職による組織的な点検で、事故を防止した。

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
⑥ 個人情報等管理、情報セキュリティ対策	個人情報の漏えい等のリスクは、常に身近にあることを意識して、ルールに従い適切に管理し、紛失、漏えい防止に取り組む。	○教務手帳の適切な管理及び定期考査処理期間のシュレッダー使用禁止等を通じて、個人情報の紛失や漏洩がないよう管理した。 ○答案用紙・成績表・調査書などの重要な個人情報の受け渡しの方法を、常に周知したことでミスを防止した。 ○classroom などツールで対策重要度Ⅲ以上の情報を扱わないというルールを徹底した。
⑦ 交通事故防止酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故の未然防止に努める。 酒酔い、酒気帯び運転を防止する。	○点検チェックリストによる点検で、法令順守意識を確認した。 ○管理職による面談で、不祥事防止意識を確認・徹底した。
⑧ 業務執行体制の確保等	職員は情報共有に努め、業務協力体制と相互チェック体制を構築し、円滑な業務執行体制を整える。	○業務の遂行にあたっては、グループリーダーや学年リーダーが報告・連絡・相談の中心となる業務体制で1年間取り組むことができた。 ○業務が特定の個人に偏らず、チームで業務を遂行する組織体制づくりを進めた。
⑨ 財務事務等の適正執行	県費、私費の迅速で適正な執行と、事故の未然防止に努める。	○私費会計職員研修会を行い、私費会計のルールに基づいた会計業務を徹底した。年間を通じて適切に執行された。 ○会計担当、管理職及び出納責任者（事務長）のチェックを徹底するとともに、ミスの情報を共有したことで以後のミスを減らした。

## 2 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

本校では、事故・不祥事の防止を目指し、これまでの取組みにプラスして同僚性の向上という課題にも積極的に取り組んだ結果、不祥事のない職場づくりが概ね達成できたと考えている。

加えて、本校は教職員のミッションを

- 生徒を信頼する
- 生徒を受容する
- 生徒を励ます
- 生徒を支援する
- 生徒を尊敬する
- 生徒の言葉を傾聴する
- 生徒との意見の違いについて話し合う

と定め、全職員で意識的に生徒と接している。生徒一人ひとりを全職員で支援する体制を構築しており、それが不祥事のない環境に繋がっている。今後もすべての職員が当事者意識を持ち、共有・協働の姿勢を持ち続けていく。令和7年度も不祥事防止会議や職場研修の充実や工夫を図りながら「不祥事ゼロ」の職場を目指していく。